

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570800203
法人名	医療法人 暁星会
事業所名	グループホーム 並木
所在地	西都市大字下三財8124番地8 (電話) 0983-44-6229
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年7月8日

【情報提供票より】(20年 6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 7 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	7, 3 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 90, 8 歳	最低	84 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三財病院 相澤歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

西都市の郊外で、田園風景の中に住宅が点在する静かで落ち着いた環境の中にホームは立地している。隣接して関連の老人保健施設等があり、連携してボランティアの受け入れや職員の異動、防災訓練等を組織的に行っている。又、運営推進会議は利用者、家族をはじめ公民館長や交番の警察官等幅広い立場の人々が参加して地域との交流に前向きに取り組んでいる。利用者の高齢化が進む中、明るく思いやりのある職員に支えられ利用者は元気で安心して毎日を暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の主な改善課題である地域住民との交流や終末期のあり方等については、運営推進会議や職員会議に報告され、改善に向けて全員で取り組み改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はミーティングで目的や意義を全員で話し合い、一連の過程を通じて理解し、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者、家族、警察、区長、公民館長等幅広い立場の人が参加して、ホームの運営状況の報告や意見交換を行っている。会議では非常災害時の対応等についての意見が出され、関連施設と合同で実施する防災訓練に具体的に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を年に3回~4回開催して、家族の意見や不満、苦情等が出やすい雰囲気づくりに努めている。又、玄関に意見箱を設置して努力しているがあまり意見が出ない現況にある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設の老人保健施設と連携して、近くの保育園児の来訪時や夏祭り等を通じて地域との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者と職員が尊敬し合い、笑顔で和気あいあいと、ゆっくり落ち着けるホーム」を理念として、その実現に向けて全員で取り組んでいる。	○	これまでの理念に加えて、さらに地域の中で利用者が安心して暮らし続けることが出来るように、この際、理念の見直しの検討を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について管理者と職員は、ミーティングや申し送り時に話し合い具体的なケアに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	関連の老人保健施設と連携して、近くの保育園児の来訪時や夏祭り等を通じて地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はミーティングで目的や意義を全員で話し合い、一連の過程を通じて理解し、サービスの質の向上に取り組んでいる。又、外部評価は運営推進会議や職員会議に結果を報告し、評価を活かした改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、家族、警察、区長、公民館長等幅広い立場の人が参加してホームの運営状況の報告や話し合いを行っている。会議では非常災害時の対応等の意見が出され、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の課題や日常業務の疑問点等について、気軽に相談できる関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族には手紙で行事の計画や結果について写真を添えて報告している。又、家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態をきめ細かに伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回～4回家族会を開催して、家族の意見や不満、苦情等が出しやすい雰囲気づくりに努めている。又、玄関に意見箱を設置して努力しているがあまり意見が出ない現状にある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の関連施設との人事異動はあるが、運営者は利用者のダメージを防ぐために異動を最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は関連施設と連携して積極的に実施されているが、法人外の研修参加が少なく、又、研修結果を職員全員に報告し周知する仕組みが出来ていない。	○	職員の質の向上のために、法人内外の研修に出来るだけ多くの職員を参加させると共に、研修結果を全職員に報告し共有できる仕組みを作してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回グループホーム児湯地区連絡協議会に参加して、勉強会や情報交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にホームに何度か来てもらったり、家族と充分話し合い、利用者が安心して納得しながら利用できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に生活しながら、生活の技や昔ながらの慣わし等を学び共に支えあえる関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の来訪時に本人を交えて、世間話をしながら希望や意向の把握に努めている。又、職員は日々の行動や表情から一人ひとりの思いを汲み取れるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員でケアについての意見交換やアイデアを出し合い、利用者、家族と相談しながら利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1回定期的に見直しを行うと共に、心身の状態に変化が見られる場合は随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて、通院や外出、外泊等多機能を活かした柔軟な支援を行っている。又、空室がある場合はショートステイが利用できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本としているが、ほとんどの利用者が協力病院をかかりつけ医としており、緊急時の対応やいつでも往診が出来る体制にあり、気軽に安心して相談できる関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用開始時に本人や家族と話し合い意向を確認している。又、職員をはじめ関係者で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないように細心の注意をしている。又、職員は個人情報保護法の理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や希望に配慮しながら、その日の気持ちを尊重して、望んでいるペースに合わせた暮らしが出来るように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が野菜の皮むきや盛りつけなどを一緒に行い、同じテーブルを囲んで同じものを一緒に楽しく食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回としているが、希望があればいつでも入浴できるように支援している。又、入浴剤を使用したり、季節風呂を用意して入浴を楽しめるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食事の準備、後片付け、外出等利用者が楽しみ事を見いだせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢化が進み、日常的な外出はかなり厳しい面があるが、出来る範囲で近くを散歩したりして支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、隣接の老人保健施設等と合同で防災訓練を実施しており、マニュアルも作成されている。又、老人保健施設の職員が地元消防団に3名入会しており、消防団との連携、協力体制は出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分の摂取状況は毎日チェック表で管理しており、嗜好や希望を採り入れたバランスの良い食事の内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、調理場と食堂の間にカウンターがなく保管、管理面で若干心配な面があるが、全体的に明るく家庭的な雰囲気落ち着きがあり、安心して生活できる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンスやテレビ、身の回りの小物等が持ち込まれ、室内も広くゆとりがあり、居心地よく生活できるように工夫されている。		